――友情のタジャドル――～奇跡の力ここに降臨～

ギャツビー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
――友情のタジャドル――～奇跡の力ここに降臨～

【Ｎコード】
Ｎ２２５５Ｗ

【作者名】
ギャツビー

【あらすじ】
オーズの最終回でのアンクの心情を短編で描いてみました。え？既出？聞こえないなぁ……（汗）

……俺は鳥のグリードの最大の特徴である翼をめいいっぱい羽ばたかせ、真木の元へと飛んでいく。オーズである映司と共に。

今思い返しても笑いが込み上げてくる。俺は今なにをしている？世界を滅ぼそうとする真木と、世界を救うために戦っている。まるで正義の味方みたいじゃないか…

だが不思議だ……映司と、コイツと一緒に戦っているとそんな事がどうでもよくなってくる。

「ハァッ！」

「セイヤァ！」

空中での戦いから地上の戦いへと切り替わる。

「デヤァ！」

コイツ……ホントにコア三枚なのか？そう思えるほど真木は強かった。こっちは二人だぞ……

「グアァァ！？」

不意をつかれた俺は真木の攻撃をモロに受けてしまい、強制的に人間の姿に戻されながら吹っ飛ばされる。クソッ！油断した！

「アンク！」

映司の心配する声が聞こえる。まったく……アイツに心配されるんじゃ俺もグリード失格だな。

だが不思議と悪い気はしない。これは人間が持つ感情なのか…分からない。俺はまだ命を手に入れてない。未だにメダルの塊だ。分からないことだらけだ……それでもひとつだけ分かることがある。それは…

「今俺の中には、貴方を絶対に倒せるだけの力がある……！」

映司が体の中からセルメダルが辺り一帯にばらまかれたことにより思考を中断する。だが……なんだこのセルメダルの量は…一体どれ程のセルメダルを吸収すればああなるんだ……あのバカが……

「セイヤァァァァ！！」

大量のセルメダルを飲み込んだメダガブリューの一閃は、真木の身体を貫く。確かにそう見えた。

空中にいた暴走したウヴァ……じゃないなもうあれは……とにかく暴走したメダルの器から放たれた光が真木の身体を急速に回復させる。あんなのありか…

「残念でしたね……いい作戦でしたが…しかし、あれだけの力を使えば君はもう……」

自分の攻撃の影響で変身が解けてしまっている映司。アイツのことだ。またグリードになってでも戦おうとするはずだ。それだけは避けなきゃな。

案の定アイツから紫色のオーラが放たれ今にもグリードの姿に変身しようとしている。これ以上あのバカが堕ちていくのは見ていられないな。俺は右手だけをいつものようにグリードのものへと変えると、映司に微妙にそれるように火弾を放つ。

……もう笑えもしないなぁ…この俺が本気であのバカのことを心配するなんて…自分が消えてでもあのバカを助けようとするなんてな……

ったく……もうアイス一年ぶんじゃ足りねぇぞ……それでも、お前をオーズにしたのは間違いじゃなかったなぁ…。なぜなら……

「おい映司！コイツを使え！」

まったく……こんなことで満足しちまうなんてな……

俺の命は、お前に預ける。

お前が掴むのは……もう俺じゃない……

《タカ！　クジャク！　コンドル！》

だから俺は、叫んだ。

最強の不死鳥の戦士の誕生と共に。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2255w/

――友情のタジャドル――～奇跡の力ここに降臨～

2011年11月11日02時44分発行